子どもの居場所プロジェクト

1，目的

・困っている児童を受け止め、組織的に「子どもの生活を支えていく」ために必要な支援や対策を行う。

2，対象児童

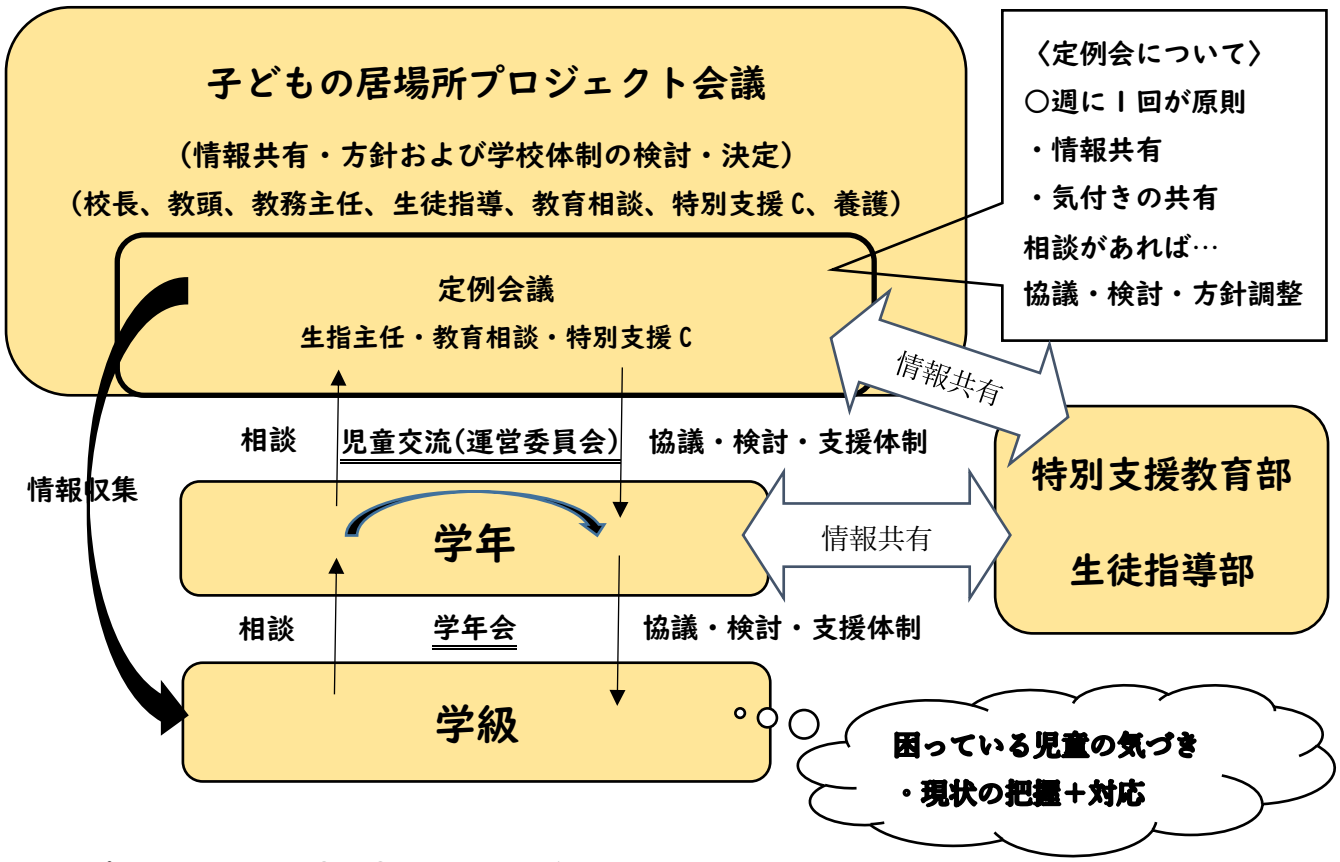
・学校生活において困っている児童

3，困っている児童とは

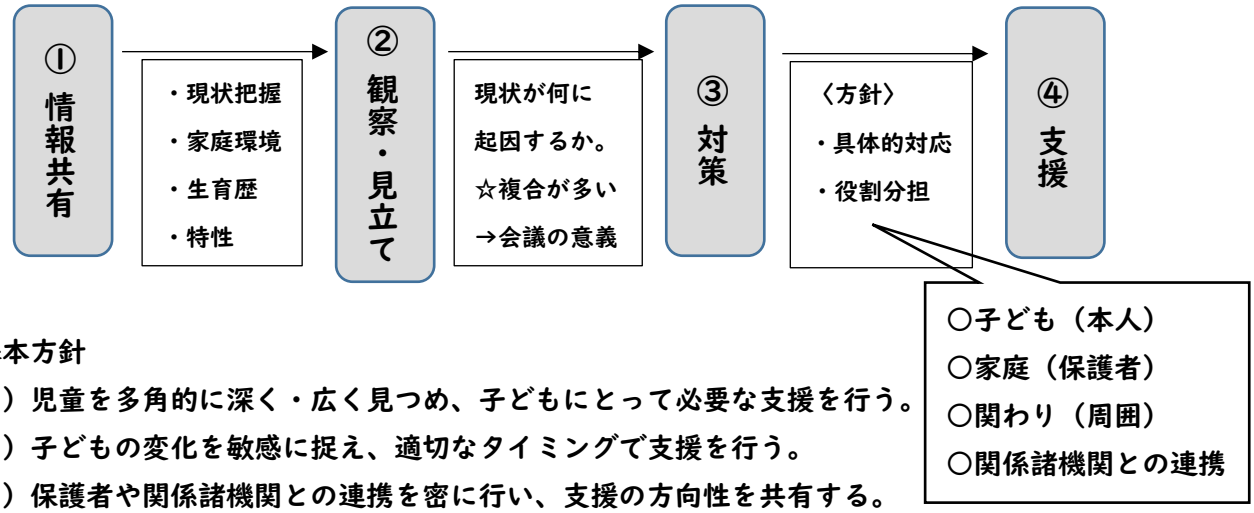
① 特別な支援を必要とする（学習面、対人関係、集団性…等）

② 環境（家庭、生育歴…等）に起因する言動および精神的・身体的症状

4，組織体制図



5，サポートシステム（①～④のサイクルで見直していく）



6，基本方針

（1）児童を多角的に深く・広く見つめ、子どもにとって必要な支援を行う。

（2）子どもの変化を敏感に捉え、適切なタイミングで支援を行う。

（3）保護者や関係諸機関との連携を密に行い、支援の方向性を共有する。

７，教育相談活動の充実に向けて

・カウンセリングマインド（以下 CM）を生かす。

【CM の基本的な考え方】

心理的事実（子どもの立場に立っての気持ち）は無条件に受け止めるが、客観的事実（誤った言動）は教師の立場に戻って指導・支援する。

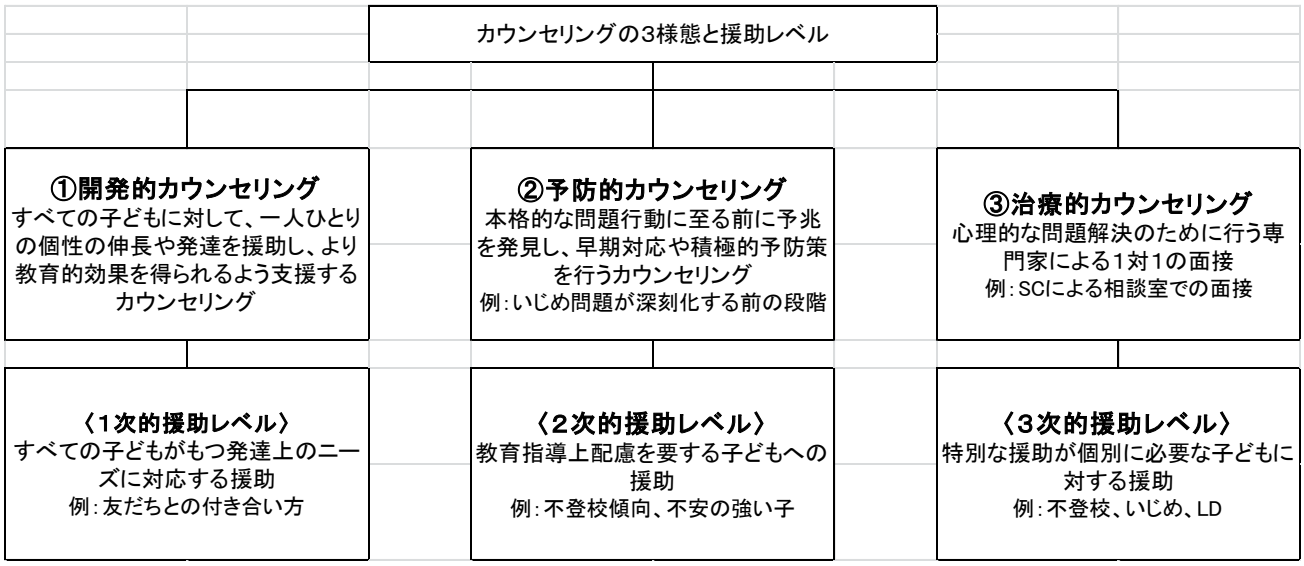
３CM の活用

CM1　心理的事実の需要
CM2　だれもが必ずよい点をもつ
CM3　だれもが自分で考えることができる

①聞く　②聴く　③訊く

※「訊く力」の重要性　→　児童自身が解決を見いだすことを支援する訊き方

【カウンセリングの３つの様態と援助レベル】



８，なごみルームのあり方について

【目標】

・どんな子どもでもしっかり受け止める「器」の機能を担う。

【方針】

①安心できる場所
②自分を見つめなおす場所
③不登校になるのを食い止める場所
④教室復帰を目指した中間地点

９，児童一人ひとりの居場所を大切にするための視点

①教師から率先して行動し、一人ひとりを大切にする姿勢やルールを守る態度を示す。
②集団におけるルールを明確にし、子どもたちが安心して過ごせる場所にする。
③教室の整理整頓を心掛け、学習に集中しやすい環境作りに努める。
④「わかる」「できる」が実感できるユニバーサルデザインの視点を生かした授業を展開する。
⑤「つまずき」を解消するための個別指導の機会を設定する。
⑥「指導したこと」を実施するための場を提供し、集団作りに生かす。
⑦ソーシャルスキルやエンカウンターの時間を設定し、仲間とのつながり方を考えさせる。